

矢作川流域圏懇談会「第3回川部会WG（家下川モデル2回）」開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成24年7月15日(日)
13:00～17:00

○開催場所：

【集合場所・WG会場】

豊田市民活動センター 会議室

○参加者：24名（事務局含む）



会議風景

(2)内容

【プログラム】

1. 開会・あいさつ
2. 前回の振り返りと本日の進め方について
3. 情報提供と質疑応答
 - ・家下川の整備状況と将来計画（愛知県河川課）
 - ・承水溝、柳川瀬公園周辺の整備状況（豊田市）
 - ・豊田土地改良区の利水について
 - ・家下川リバーキーパーズの活動報告（矢作川水族館）
4. 意見交換
 - ・家下川の現状と課題について
 - ・WGの今後の活動内容について
 - ・第1回全体会議について

2. 主な会議内容

第3回川部会WG（家下川モデル2回）では、管理者等からの情報提供と質疑応答を行なった後、意見交換を行なった。意見交換の中で、家下川モデル1回に引き続き、本川における活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、課題の洗出しを行なった。WGで話し合われた主な内容は以下のとおりである。

- 管理者等からの情報提供で前回明らかでなかった家下川周辺の計画等について情報共有がなされ、家下川の現状と課題について意見交換がなされた。
- 前回と同様、課題解決に向けての現状把握（家下川や水路の流量、地下水の状況等）を進める必要があることが認識された。
- 家下川と承水溝、ひょうたん池等の水位や洪水時の管理方法等について、管理者間で確認し、次回に情報提供することとした。
- 各モデルWGの進捗を考慮して、第3回川の地域部会の開催月を10月から12月に変更する。
- 次回WGは、本川モデル2回WGであり、8月23日13:00～17:00とし、家下川モデルと同様、現状と課題について意見交換を継続する。また、その後のWGの予定として、本川モデル3回WGを9月21日、家下川モデル3回を10月26日に実施する。いずれも、時間は13:00～17:00とし、会場等、具体の場所は後日調整する。

3. 情報提供と質疑応答

(1) 家下川の整備状況と将来計画（愛知県河川課）

愛知県豊田加茂建設事務所河川整備課高橋氏より家下川の整備状況と将来計画について、説明を伺った。

- 家下川の河川整備計画は、平成 16 年度に国の認可を得ており、この整備計画に則って実施していくものである。
- 明治用水下の暗渠部より下流は、1/10 洪水に対応した改修が終わっており、明治用水下の暗渠部だけがまだ整備が終わっていない。
- 明治用水は、今後改修する予定があるとは聞いていたが、去年 10 月に農政局から声がかかり、前進しつつある。ただし、農政局もこれから計画を作成するところであり、下流から改修となると、家下川周辺箇所はまだ何年後に改修されるかわからない状況である。
- 明治用水より下流域は本川に水が入らず、阿部さんの活躍されている場所も家下川の流域外である。市の管理している上流側の住宅街の雨水雑排水が、唯一、家下川に流れてくる。
- 将来計画 1/30 の断面は一応あるが、設計したものではなく、現状からどの程度下げる必要があるかはわからない。現護岸はそのままに、将来計画に見合う量を掘り下げ予定である。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 1977 年の河川法改正で環境に対する整備の位置づけをし、多自然川づくりをやることになったが、それは工事するチャンスがないとできない。家下川のこの区間は 1/10 整備が終わってしまっているの、1/30 河川整備をやる場合にはできるが、正面から整備することはなかなか難しい。(鷺見)
- ・ トンネル周辺に、オカタ産業や新明工業があって、水が浸かるたびに新車がダメになってしまう。国に話しても全く応答がないと言っている。(裕伸夫)
 - ▶ 協議が進まないという時間的な制約により、洪水の頻度も規模も大きくなる。将来 1/30 にしたいという話もあり、正面から工事を行なうにも、協議はなかなか進まない。そうであれば、緊急避難的な対応はできないかということも考えられる。(鷺見)
- ・ 整備についてどういう状況か、地域の人に情報が十分に提供されていない。地元では腹を割って話をしたいと言っている。(裕伸夫)
 - ▶ ボトルネックを作らずに下流から整備していくのが前提であるが、先に上流が整備されてしまった。河川整備計画の中でやるというのは、なかなか難しいので、何か他のやり方を考えなければならないかもしれない。(鷺見)
- ・ 頻繁に水に浸かるところは、この地図上ではどこか。(内田)
 - ▶ 1971 年以降、3 回浸かっている。ということは、10 年に 1 回ぐらい水が溜まる。
- ・ 川の中を覗くと、昔のブロックが残っていたりするが、治水上問題があったりするといけなないので、取り除く段階で、一緒にきれいな川に整備できるとよい。(阿部)
- ・ 整備計画の中で、維持管理上、手をつける必要があるか確認したい。(事務局)
- ・ 土砂も動くところと動かないところがあり、本来は、その形状も含めて、デリケートに検討する必要がある。(鷺見)

(2) 承水溝、柳川瀬公園周辺の整備状況（豊田市河川課）

豊田市河川課の内田氏より、承水溝、柳川瀬公園周辺の整備状況について説明を伺った。

- 承水溝は、西大排水路といい、また、家下川と平行に走っている部分を普通河川上野川と
いって、豊田市が勝手に名前を付けた状況があり、3種類の名前がある。
- 長池から上流部分は、構造物自体は改良区が作ったもので、豊田市で日常的な管理をやっ
ている。上野川については、改修計画がないが、土砂が溜まっているので浚渫している。
阿部さんよりいろいろと意見があり、要所に土草を残しながら浚渫する方法を試している。
- 昨年度は、コンクリートを剥がす実験をやり、効果が出ているので、継続していきたい。
- 柳川瀬公園は公園課が管理しており、今後の整備予定はない。宗定川について、河川改修
まではいかないが、環境に配慮してやっていきたいと考えている。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 上野川は、普通河川で河川法に位置づけのないものである。豊田市河川課が管理している
ものか。（鷺見）
 - ▶ 現在はそうである。（内田）
- ・ 昔は農地を管理している人々が、コントロールしてきた用排水兼用の水路であるが、用水・
排水が分離されると、用水は農業管理者にとって重要な問題で、排水は流れれば十分とい
う話になる。この管理が誰になったか、あいまいな状況の水路がたくさんある。（鷺見）
- ・ 宗定川の現地に行った時、水が来ないという問題があった。現状は、農地に用水が必要な
ときに、水が入ってくることがあるだけなので、他の水路から水が回せないか。（光岡）
- ・ 流量が少しでもあるのであれば、水深が深すぎる状況になっている場所もあるとしたら、
そこは流速が細くなってしまう。（鷺見）
- ・ 樋門の管理は誰がしているか。今開いたままになっている。（杉浦）
- ・ 越流堰があって直下に樋門あるということは、市が管理しているのはおかしい。越流堰と
合わせて、県が管理しないとおかしいのでは。（小澤）
- ・ 誰もケアしない可能性があるので、この部分は誰が管理しているか明確にさせていただき
たい。（鷺見）

(3) 家下川リバーキーパーズの活動報告（矢作川水族館）

矢作川水族館安部氏より、最近の家下川での活動状況と今後の活動予定について伺った。

- 7月7日は大水のため、家下川リバーキーパーズの活動は中止となり、8月第1土曜日に矢
作川の天神橋の下で活動したい。
- 今回は、砂をどこかにためるものを作って、二枚貝が生息できるかやってみたいと思っ
ている。日程は、おそらく11月になる予定である。
- この8月から川の周りで起こっている事を、新聞の形にして地元で情報を提供していこう
と思っている。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

- ・ 二枚貝は、上野川でやるか。今は川底はコンクリートであるが。（鷺見）
 - ▶ そうである。全部コンクリートだが、砂利がある所に、トンガリササノハという絶滅
危惧種が定着したものを観測できた。何かきっかけがあれば、稀少な生物が見られる

か興味がある。(阿部)

- ・ メダカが増えてきたが、カダヤシ（外来種）が爆発的に増えて、その対策をやるべきかと考えている。(阿部)
- ・ 魚の住みやすい川づくりがテーマになっている。河川改修や行政の大きな工事と合わせて、力を借りてやることはなさそうだ。(光岡)
 - 短期的な話では、別のフレームワークを検討する必要があるかもしれない。河川整備計画上の河川改修の外側でできることが、議論の対象になるのではないか。(鷺見)
- ・ 広報について、地域にローカルな情報を伝えるのは大事で、地元の人知らない話は、やっている人は知っているが、やっていない人は知らないという状況は、どうしたら解消できるかアイデアがほしい。どういう方に配られるか。(鷺見)
 - まず地元の人に知ってもらいたいと思っており、回覧板などで回す予定。(阿部)
 - 下手に情報が伝わると、悪い方向に行く可能性もあるので気をつける必要がある。(碓伸夫)
- ・ 矢作川本川では、どれだけデリケートに伝えているか。
 - 地方紙とか、ひまわりテレビなどに興味を持っていただいたら、誤解のうまれないようにうまくアナウンスすることを心がけている。(碓伸夫)
 - 積極的にやるとすれば、豊田市記者クラブに投げこむ方法もある。(碓伸夫)
- ・ どういうメディアを相手にするかが問題になるし、内容言い方も問題になる。何を伝えるかということも大事である。(鷺見)
- ・ いつも感じている疑問を、これはどうなっているかと聞くことと、もう一つは、「魚の棲みやすい川づくり」ということで自分たちのできることもしっかり考えていければ。2足のわらじみたいに、上手にやっていると勉強ができると思った。(碓さくら)
- ・ 役所側の人間は変わっていくので、それは懇談会側が上手くケアできるとよい。(鷺見)

(4) 豊田土地改良区の利水について

豊田土地改良区の事業内容と利水について、事務局より概要の説明を伺った。

- 水利権が様々なルートがある。家下川に来るルートは、巴川上流の細川頭首工から取水し、矢作川（葵大橋）の下を潜って家下川の少し上流に出てきて、上郷幹線という水路になる。冬場の水利権はなく、将来に渡って水量を入れることは難しいということであった。代替水源が必要である。
- 上郷地区は優良農地であるが、豊田土地改良区も水には大変苦労している。水源について、皆さんと少しでもいい形を考えていきたいという話を伺っている。

4. 意見交換

これまでにいただいた情報提供を元に、意見交換を行なった。

【意見交換】（ ・ ご意見、提案 ▶ 回答 ）

（1）家下川の現状と課題について

- ・ 河川からの取水について、水資源機構が一括して取得する機会が多いが、ここでは、土地改良区、つまり、利水者が直接水利権を取得している。水利権には、慣行水利権と通常の水利権があり、通常の水利権は、10年ごとに更新する必要がある。土地改良区も、厳しい条件の下で水を管理している。また、昔は用水と排水を兼用している水路があって、今はいろんな効率上の問題があり、水を送る側と出す側を分けるのが通常である。現場の状況の背景を認識したほうが良いということで、今、情報共有している。（鷺見）
- ・ 流量がなくても水深が確保できるような対策、水源の話について、議論をしたい。理想は上流から水がくること。流量増＝水利権が必要で、長期的には可能かもしれないが、今すぐには難しい。（鷺見）
- ・ 公園の中に井戸を掘ってはどうか。
 - ▶ 地下水の水位がどの付近にあるかということが問題になる。（鷺見）
 - ▶ 昔は1m掘れば、水が出た。今は、防火防水を家の近くで7m掘っても出なかった。場所は宗定川の近くである。時期は覚えていない。（阿部）
 - ▶ 承水路に近いところで、夏場で2～3m付近にあることがわかっている。（事務局）
 - ▶ その場所は、元々沼があったところで一番水が出やすいところである。（阿部）
 - ▶ 公文というところに湧水が湧いている場所がある。（葵大橋より上流付近）旧河道の右側の入口に当たるので、湧水の可能性がある。（杉浦）
 - ▶ 自然に溢れているか、ポンプで汲み上げか、工場の敷地内で正確にはよくわからない。ただ、河川保全区域の18mから離れないと、水利権の話が出てくる。（小澤）
 - ▶ 上水道も地下から汲み上げているという情報がある。（山本）
 - ▶ 掘った井戸が田んぼの中にもあり、上水道としても利用している。（事務局）
- ・ 地下水については、今後もう少し情報を集めたい。（鷺見）
- ・ 家下川の水を自然流下で排水路に入れることは可能ではないかと思う。（杉浦）
- ・ 家下川では、普段流量観測はやっているか。（鷺見）
 - ▶ 建設省と書いてある水位計があるが、その実態はまだ把握できていない。（事務局）
- ・ 家下川の流量が、どこでどれだけ流れているかは、本当は把握したい。川の水位と地下水位と地盤の高さがわかると、ある程度整理できるかもしれない。（鷺見）
- ・ 地下水は誰か調べているか。（内田）
 - ▶ 水道局が調べている。（山本）
 - ▶ 豊田市市史編纂室に、地下水の関係などの調査で学生のアルバイトを出したことがあり、地下水の情報があるかもしれない。（内田）
- ・ 地下水は、現実的ではないと思う。戻すことを前提にして、家下川の余水を流すことが現実的ではないかと思う。ただ、水利権的にどうかという問題があり、河川法上、普通河川に水を導入することが、河川法上許されるかという問題がある。（小澤）

- ▶ そもそも家下川の水系とみなせるかどうかの問題もあるが、まずは可能性として考えていきたい。(鷺見)
- ・ 普通河川に1級河川から導水している事例があり、三重県の宮川の導水事業であるが、これは1級河川の世田ヶ谷の浄化ということが目的にある。(小澤)
- ・ 都市排水路からの可能性がある。特に周辺に台地上の住宅があり、崖線がこの地域にたくさんあるので、技術的には可能ではないかと思う。(鷺見)
- ・ 稚児の口公園の安永川の水は、どうやって引くことができたのか。(内田)
 - ▶ 当時の国と県と市が、平成8年頃安永川に用水路の施設を作って汲み上げて、各河川に落として水を流している。(事務局)
 - ▶ 溜めたところからポンプアップしている。0.5トン程度であるが。(事務局)
- ・ 法的にどう処理しているか。(鷺見)
 - ▶ 河川事業でやっている。維持管理は、市がやっている。(事務局)
- ・ 持続可能かということは、難しいところであり、やはり重力式でできるのがよい。水位が-2.5では地上、排水路までは上がれないということになる。なるべく上流に公園があって、そこからなるべく流域をカバーできるとよい。(鷺見)
- ・ 阿部さんから、このあたりのことを議論しておきたいということがあれば。(鷺見)
- ・ 現場でやっていること(水路マスや植生付け)は、どうしても不自然で、一番良いのは昔の素掘りの川が見られることだと思う。繋げていく方法はないのか。短い区間でもこういう形ができればいいと思う。(阿部)
- ・ 何がそれらしい川かということがわからなくなってきている。今は何が違うか、ということとを対比できるとよい。どんな要素が用意されたらよいかということを示していただけると有難い。(鷺見)
 - ▶ 昔と決定的に違うのが、水が滔滔と流れていた。昔みたいに水量がないかぎり、あの川底は生まれないと思う。(阿部)
- ・ それらしい像を見るのも難しい。(鷺見)
- ・ ある程度の水量と、ある程度のものしかできない。どんな川と言ったら、データとして残っている、昔から居る生き物が、最低限生き延びられる環境を整えておきたい。(阿部)
- ・ 魚がすみやすい川といった時に、たくさん魚がいればいいのか、それとも魚種がいた方がいいのか。各河川でそれは異なるが、家下川ではどうか。家下川の姿を見定めて、目指していければよい。(光岡)
- ・ 現場での横断形と縦断形をどうするかという話がある。縦断はある程度整理されていると思うが、次に横断形をどうするか、つまり、川底の話や陸域との連続をどうするかという話がある。トライアンドエラーをやらせてくださいというやり取りをする条件を整えることを懇談会の一つでやるのはよい。(鷺見)
- ・ 断面の話では、家下川では、愛知県河川課が管理、上野川は豊田市河川課が管理している。家下川は河川法上の河川であり、田んぼは普通河川、農地の河川で上水にいったらいいか。農地、法河川でない水路に対して、行政はどう対応できるのか。(鷺見)
- ・ 実験でマスを作りましたが、河川改修はかなり大変なので、マスを引き続きやっていき

いという思いはある。(山本)

- ・ 市の対応として、前提の計画がないという中では、柔軟に対応できるものか。お金がかからなければいいということはあるか。(鷺見)
- ・ 水土里環境保全会、土地改良とか各地区に委託して、農業経営者達の集まりの補助がある。一項目に生物多様性対策があり、1haに対していくらかという補助金が出る。(光岡)
- ・ 外部資金をとれるようにがんばってみるとよい。一番ハードルが高いのは施設にお金を出すことであるが、そういうことをやっている制度もあるので、この懇談会の場で集めて情報共有できるとよい。(鷺見)
- ・ 1/10 の段階でどこまで用地買収しているか、把握する必要があるのではないか。というのも用地があるところでは、修繕工事のような形で作ることは可能ではないか。(杉浦)
- ・ 場所の余裕と予算の関係もあるが、ポイントとしてそういうことは考えられる。(鷺見)
- ・ 川の断面を考える段階で、生物の生息場所をどうするか、いろんな可能性があると思う。阿部さんから、どんどんアイデアを出していければよい。その時に一番大事なのは、土地改良区と市、県、国がどの水面を基準とするか考えておいた方がよいのではないか。(内田)
 - その点はとても重要で、どの水面が基準線か、土地改良区と市と全体で話合ったが、なかなか決められない。(阿部)
 - 河川整備計画では、そのあたりは整理されているはずで、家下川の樋門は 1/30 でできており、あの河床高が計画の高さになる。(杉浦)
 - 水門とその下流(本川側)の高さは決まっているので、それは変えようがなくどう接続するかという話である。(鷺見)
- ・ 国では、計画当時の資料整理を始めており、魚が登れるような、水の多いとき少ないときということで、検討に入っている。(事務局)
- ・ 家下川に上がってきた魚が、承水路に移動する事が難しい。水が増えれば問題がないが、水がない状態だと、魚の量を増やすには、あそこに水深ができれば、魚が冬を越えられる。水を溜めたら、文句が出るから、浚渫しなければならぬ。(阿部)
- ・ 承水路の下は、コンクリートか。(鷺見)
- ・ 全部、昔のままの土で、ただ、川底は平である。(阿部)
- ・ 平らにしない条件にすれば、下げられる水位も、それなりに確保できる。(鷺見)
- ・ 重機で水を掘って、違う水深を作ること、中に移動させるだけでいい。ポンプの水の吸い出しが凄いので、中途半端に掘っただけでは、大雨時にすぐ平らになってしまう。(阿部)
- ・ 樋門が決まっているなら、低い所に出口があって、狭く水が流れる状況にしたほうがいい。(鷺見)
- ・ ひょうたん池の高い所にある樋管は国が管理しているか。(鷺見)
 - 今、調べているが、その経緯はもう少し時間をいただきたい。(事務局)
 - 土地改良区、豊田市、愛知県、国で調整して、その関係をはっきりさせる。(事務局)
- ・ 普段の水位管理も含めて、望ましい姿を考えていく必要がある。(鷺見)

(2) WGの今後の活動内容について

- ・ 次回以降の活動について決めていく。(鷺見)
- ・ 本川モデル2回は、8月23日13:00~17:00で決まっている。また、川の地域部会を10月に実施する予定にしており、2月18日全体会議第2回に向けて3年間の成果をまとめるためのものである。また、11月下旬の勉強会について、川が担当になっているので、今後、調整が必要である。以上の日程調整をお願いしたい。(事務局)
- ・ 本川モデル2回もしくは3回では、現地で水の中に入って、現場を確認したい。(内田)
- ・ 本川は、できれば方向性を決めてから、活動に入っていただけるとよい。(事務局)
- ・ 本川モデル3回は、9月21日13:00~17:00とする。(事務局)
- ・ 川の地域部会は、10月ではまとまらないので、12月初旬に変更しましょう。(鷺見)
 - 了解した。(全員)
- ・ 家下川モデル3回は、10月26日13:00~17:00とする。(事務局)

(3) 第1回全体会議について

第1回全体会議に提出する資料(案)について、事務局より説明を伺った。

- ・ 参加者は、全体会議は、各市町村の副市長クラスが参加する会議で、その参加者について、電力と明治土地改良区、豊田土地改良区。市町村は豊田市、岡崎市、安城市とする。市民代表として、各部会2名というのは少ないので、各WG2名の計5名としたい。(鷺見)
- ・ 部会長から要望があれば、全体会議から了解を取って、そのメンバーでいく形で、各全体座長にも了解を取っている。(事務局)
- ・ これだけ魚が戻ってきて、何が課題か教えていただきたい。(小澤)
- ・ 地元の人には、魚がいなく思われているので、全国でも有数ないい場所ということ、分かってもらいたいことが、第一である。この場所は、魚が増える可能性はあるのに、現実はそのにない。それを昔のように魚がたくさん増える環境に戻したい。(阿部)
- ・ そのために、産卵場所、隠れる所、連絡がないから増えないのかといったヒントを教えてください。(小澤)
- ・ 魚が卵を産むポイントは、砂、草、石、たれ流す、いろいろいる。冬越しの場所も違うので、バランス良く作る必要がある。(阿部)
- ・ 何が整ったら、何が戻ってくるかを私たちは理解したいが、少し話を聞くだけでは難しい。また、記録が残っていく方がよいことを考えると、勉強会のような場で、まとまって話を聞くことができるとよい。それは話していただくことは可能か。(鷺見)
 - それは可能である。(阿部)
- ・ どういうルートで物事を考えるか整理する上でも、重要であると考え。(鷺見)
- ・ 私も全部が全部知っているわけではないが、春を過ぎると魚は一匹も居なくなる。魚は、知らない間にあちこちに移動している。閉じ込めると、生き延びることはできない。(阿部)
- ・ 家下川の環境における、一つの事例として、こんな思いを持っているということでの説明ですね。(事務局)
- ・ 現場の話をしていただいて、整理をしていきたい。(鷺見)

以上